研究ノート

昭和の生活文化研究

鍋島恵美子・重松義成・島かおり・吉村浩美

（佐賀短期大学　生活福祉学科）

（平成20年２月29日受理）

A life culture study of the Showa era

Emiko NABESHIMA, Yoshinari SHIGEMATSU, Kaori SHIMA, Hiromi YOSHIMUARA

(*Department of Life welfare, Saga Junior College*)

(Accepted February 29, 2008)

Abstract

There are many students finding a job in the field of senior citizen as a care worker in students of the life welfare subject. When we understand senior citizen, it is very important that students understand life culture of the Showa era. But, when students went to the institution for care training; don't understand it what kind of thing that can't regard communication as a senior citizen well should have talked about. It is often that we appeal to the institution side a students can't plan communication. There is an opinion. It is with a current youth and a senior citizen born by the end of the war, and there is a big change for life. It is important that students to become a care worker knows the life cycle of the senior citizen, besause there is a big difference in consciousness for the war and sense of values in the life. We study the actual situation of the history and the culture of the Showa so that we know then deeply, and students can understand a senior citizen and means of senior citizen planning communication to through this study and we want to utilize them for care worker training education.

Key words : life culture of the Showa era　昭和の生活文化
care worker　介護福祉士
communication　コミュニケーション
senior citizen　高齢者
care training　介護実習

1．はじめに

生活福祉学科の学生が介護福祉士の資格を取得するためには、施設における450時間の介護実習が必要であるが、介護実習に行った際、「高齢者とコミュニケーションをうまくとることができない、どのようなことを話したらいいかわからない。」と訴えることが多い。また、介護実習施設の方からも巡回指導や実習連絡協議会の時等に必ずといっていいほど「最近の学生は、利用者とコミュニケーショがうまくとれずボーとしている学生が多い。積極性がない。」等のご意見を頂く。学生は、コミュニケーションを図りたくても話す話題が浮かばないのではないかと思われる。

戦後60年を経たわが国は、国民の生活水準の向上に伴い、人々の意識やライフスタイルが大きく変わった。少子高齢社会の今、三世代家族は減少し核家族化の進展等により、家庭において若者が高齢者と触れ合う機会は少なく、三世代家族であっても、家族が一つのテーブルを囲んで食事をするような光景を見るのは少なくなっている。現在の家庭の多くは共働きで、子どもはそれぞれに部屋を持ち、パソコン、携帯電話、ゲーム等が普及し、家庭内でも「個」が重視されるようになった。本来ならば父母や祖父母から家庭において躾られるべき基本的な生活習慣、生活能力、倫理観、社会的なマナー等も希薄な若者も多く見うけられる。

このように、戦前の軍国主義の厳しい統治の下で、また、敗戦後の貧しい時に幼少期や青年期を過ごしてこられた高齢者の生活と比べると、現代の生活のあり様は大きく変化しているため、若者と高齢者に世代間ギャップが生じるのは当然のことであろう。

しかし、介護をするに当たっては、利用者と信頼関係を築くことが大切であり、そのためにはコミュニケーションは不可欠である。コミュニケーションを図るためには、「話す」「聴く」「伝える」技術が必要であり、相手のことを知らないとコミュニケーションのキャッチボールは難しい。

そこで、本研究ノートは、学生が高齢者をより深く理解し、コミュニケーションを図るきっかけとすることができるよう、現在60歳以上の高齢者を対象に、過ごして来られた大正から昭和時代の歴史的・文化的な背景や高齢者の思いや考え等をまとめ、介護実習指導や老人福祉、その他介護関連科目全般にわたる授業において活用したいと考える。

資料

アンケートのお願い

現在、学生の教育に活用できるよう昭和の文化研究を行っており、お忙しいなか申し訳ございませんが、エルダーカレッジの皆様にも下記の内容につきましてアンケートにご協力をよろしくお願いいたします。

鍋島・重松・島・吉村

問1　あなたの生まれた年・歳・性別を教えてください。
1．大正（　　）年（　　）歳（男・女）
2．昭和（　　）年（　　）歳（男・女）

問2　あなたが若かりし頃（幼少期から青年期）に流行った遊びを教えて下さい。（複数可）
（　　）

問3　あなたが若かりし頃（幼少期から青年期）に流行った歌・歌手で印象に残っている歌・歌手を教えて下さい。（複数可）
（①流行った歌…
②歌　手…）

問4　あなたがこれまで生きてこられたなかで、歴史的な出来事として一番心に残っている出来事を教えて下さい。（複数可）
（　　）

問5　今の若い人たちに理解して欲しいこと・残したいこと・教えたいことについて教えて下さい。
（①理解して欲しいこと
②残したいこと
③教えたいこと）

問6　これまでの生活で、もっとも嬉しかったこと、悲しかったこと、つらかったことなど、差し支えなければ教えて下さい。
（　　）

ご協力ありがとうございました。

2．方　　法

(1)　エルダーカレッジ生を対象にアンケート調査
(2)　文献やインターネットによる昭和文化の調査
(3)　北名古屋市歴史資料館・回想法センターの見学

3．結果と考察

(1)　エルダーカレッジ生によるアンケート調査より

エルダーカレッジ生のうち約80人にアンケートをお願いし、男性14人、女性13人から回答を得た。

【年齢別回答者数】

	男性（人）	女性（人）
大正10～14年（86～81歳）	1	0
昭和元～５年（81～77歳）	1	1
昭和６～10年（78～72歳）	6	1
昭和11～15年（71～67歳）	4	5
昭和16～20年（66～62歳）	2	3
昭和21～25年（61～57歳）	0	3

アンケートの内容は、自分の「幼少期～青年期に流行った遊び」、「幼少期～青年期に流行った歌・歌手」、「歴史的な出来事で一番心に残っていること等」について問うた他、「今の若い人に①理解して欲しいこと、②残したいこと、③教えたいこと」、「これまでの生活で最も①嬉

しかったこと、②悲しかったこと、③辛かったこと」を問うた。回答の詳細は別表としてまとめる〈表1－1男性・表1－2女性〉。

考察については次のとおりである。男性の『流行った遊び』で多かった回答が、「コマ回し」「ぺちゃ（メンコの方言）」「凧揚げ」「かくれんぼ」「陣取り」「めじろ取り」「魚釣り」等であり、自然の中で駆け回って遊ばれた情景が目に浮かぶ。特徴的なのは、70歳以上の方の回答に「戦争ごっこ」があり、少年期だった頃戦争があり、戦争が遊びにも反映していたことがうかがえる。女性の遊びでは、「ゴムとび」「陣取り」「お手玉」「おはじき」等、女性特有の遊びが多い。

『流行った歌・歌手』については、男女問わず70歳以上の方は"戦争にまつわる歌"や「軍歌」の回答が多く、「青い山脈」「リンゴの歌」も多かった。歌手については「藤山一郎・春日八郎・岡晴夫・美空ひばり・渡辺はま子・津村謙・笠置シヅ子・高峰三枝子」等、往年の歌手の名前を挙げている人が多かった。60歳代になると、流行った歌は「小指の思い出」「からたち日記」「南国土佐を後にして」「ブルーライトヨコハマ」「また逢う日まで」等の回答もあり、歌手も「橋幸夫・島倉千代子・ペギー葉山・マヒナスターズ・石原裕次郎・いしだあゆみ」等の名前も見られ、現在でも懐かしのメロディ等の音楽番組に登場する歌や歌手も多い。

『歴史的な出来事で一番心に残っていること』については、なんといっても男女とも回答が多いのが「太平洋戦争」「敗戦」「長崎原爆投下」「復員」「引き上げ」等、戦争体験の出来事である。70歳代以下の方になると「皇太子・美智子妃殿下の結婚式」「ヨド号乗っとり」「浅間山山荘事件」「東京オリンピック」「ケネディーの暗殺」とあり、また「ダイアナ妃の事故死」等、つい最近の出来事と思われるような回答もあった。特に60歳代は、62歳の方の生まれた年が昭和20年で終戦の年に当たり、少年期や青年期は、戦争後の高度経済成長期やそれ以降であるため、流行った歌や歌手、心に残っている社会的出来事等、70歳以上の方と比べると、回答に違いが見られる。

今の若い人に、①理解して欲しいことという問いに対しては、「年配者の気持ち」「物の大切さ」等の回答が多く、②残したいことは「日本の自然の美しさと文化・伝統」「地域の行事・祭り」「目上の人への尊敬」「敬語」「礼節」等の回答が多かった。また、③教えたいことは「謙虚になること」「礼儀作法」「言葉遣い」「強い精神力」「昔からの習慣」等の回答があり、今の若者は、無礼で軟弱な若者が多いように見えるのだろう。

これまでの生活で最も①嬉しかったことという問いに対しては、男女とも圧倒的に多かった回答が「結婚」「子ども誕生・子どもの成長・進学」「孫の誕生」であり、80歳代の方の回答には「復員できた（男性）」、70歳代後半の方は「引揚げ船上から日本を見たとき（女性）」等の回答が見られた。②悲しかったこと③辛かったことの回答は多くが「肉親の死」を挙げておられ、70歳代後半以上の方になると「多くの戦友を亡くしたこと」「敗戦」「復員後の困窮生活」「引揚げの途中で多くの子どもが置き去られ、死んでいったこと」等の回答が見られ、体験した人にしか解らない戦争の悲惨さ、辛さがうかがわれる。

(2) 文献やインターネットより昭和生活文化の調査

1) 大正・昭和の歴史（表2－1～3）

大正時代を代表する出来事として「第一次世界大戦と大正デモクラシー」をあげることができる。1912（明治45）年7月、明治天皇が崩御し、大正天皇が即位するが病弱であったこともあり15年という短い時代であった。

しかし、世界全体を巻き込んだ初めての大戦の1つがこの時代に起こった。日本はこの頃、政治体制の不安定さや景気が悪化していたこともあり、ヨーロッパで起こっているこの戦争を好機とした結果、日本経済は大戦景気で豊かになった。隣国の中国においては清国が滅び、中華民国が成立する。日本は、中華民国新政府に対し様々な要求をつきつけたことにより、中華民国内では、排日運動が盛んとなる。1917（大正6）年には、ロシア革命により世界初の社会主義国であるソビエトが誕生しレーニンがそれを率いることとなる。この出来事がきっかけとなり、日本は1922（大正11）年まで、シベリアへ兵隊を出兵させることとなった。後期高齢者との会話の中でこの「シベリア出兵」の話はよく聞かされる内容であり、本学エルダーカレッジのアンケート調査の中においてもこの言葉がみられた。

この好景気によって「成金」と呼ばれる人々が誕生し、人々の生活が今後明るくなるように見えたが長続きはしなかった。シベリア出兵による米の価格が急激に上がり、国民の生活を苦しめることとなり、1918（大正7）年には米騒動が勃発した。

第一次世界大戦後の世界は、国民を中心とする民主主義、国民の利益と幸福をはかる政治を作り上げることの大切さが叫ばれるようになる。これまで、政治に関心のなかった国民の政治に対しての関心が高まることとなった。この風潮を「大正デモクラシー」と呼んでいる。日本が大きく変化する中で1920（大正9）年には戦後恐慌、1923（大正12）年には関東大震災が起こり、一段と国民生活は苦しくなった。「朝鮮人が暴動を起こした」等の流言により、朝鮮人や中国人の虐殺が行われたことも忘れてはならない事実である。

このころより、都市化が都市部において進み、大衆化も進展することとなる。電気、水道、ガスを備えた文化

住宅に居住し、洋服姿で電車や乗り合いバスで鉄筋コンクリートの官庁等へ出勤するサラリーマンやタイピストや電話交換手、バス・市電の車掌等女性の花形職業が誕生する。ラジオや放送や１冊１円の円本、新劇、帝展、院展、野球大会、映画等も広く国民に広まった時期である。

1926（大正15）年、大正天皇が崩御し、幼少であった昭和天皇が即位し、64年の昭和時代の幕開けである。第２次世界大戦を境として戦前の日本と戦後の日本は大きく変化する。戦前は、軍国主義をベースとした政治であり、前後は、国民の主権を尊重した政治体制である。特に軍国主義が始まる出来事として満州事変や国際連合の脱退等があげられる。天皇を中心とする国家体制が樹立され、軍部による中央集権体制となる。国民精神総動員運動や1938（昭和13）年の国家総動員法、1939（昭和14）年の国民徴用令等により国民の生活の中心は「戦争」であった。「ぜいたくは敵だ」のスローガンも流行し、生活必需品も節約、切符制、配給制度となった。町内会や隣組が制度化され、すべての国民が戦争に協力する体制がとられることとなった。

1941（昭和16）年に小学校が国民学校と呼ばれることとなり、学校教育も戦時に対応できる人材の育成が行われた。本土空襲が激しくなると子どもたちは地方への集団疎開が始まり、女性や高齢者等も都市から地方へと移動することとなった。残された多くの国民は軍需工場に徴用され、中等学校以上の学生たちも学徒勤労に従事した。文系大学生の学徒出陣も始まり、戦争、軍国主義を中心とした政治・経済・教育となった。

文化も当然華やかなものではなかった。歌等は、外国の歌詞は日本語に直され、蓄音機で自由に聴くこともできなかった。文学も軍事ものが中心となり、一般大衆の娯楽の一つであった歌謡についても軍歌を中心とするものであった。服装についても、国民服やもんぺが奨励され、パーマネントが禁止された。

第２次世界大戦は1945（昭和20）年８月15日、天皇のラジオ放送（玉音放送）によって戦争終結を迎えることとなった。

戦後の日本は、以前と比較すると大きく変化することとなる。軍事体制、軍国主義、天皇を中心とした中央集権体制を否定し、天皇の神格も自らが否定した。また、これまでの政府の要職にあったものや軍人等はすべて公職追放されることとなり、非軍事化政策や国民を中心とする体制を構築することとなった。

財閥解体や農地改革、労働者の権利保持、小学校・中学校の義務教育化等、国民中心の、国民一人ひとりの生活を重要視した制度政策が作られることとなった。これを支えたのが1946（昭和21）年の日本国憲法である。この日本国憲法は、①国民主権②平和主義③基本的人権の尊重を柱に、これから日本の進むべき姿を明確にしたものであった。

戦争によって焦土化した日本は、一からの出直しとなった。国民すべてが総飢餓状態であり、防空壕や廃材を利用して建築したバラック小屋で生活をした。戦争や将兵の復員や引き上げによる失業種の増大等非常に苦しい生活状態となったのである。配給制度もうまく進まず、農村への買い出しや闇市で買い物をする人々が多く、善事よりも厳しい生活状態であった。都市部で生活する人々は、自分の衣服と食料を交換する「タケノコ生活」等もこの時代の生活文化を代表するものである。また、戦争で両親を亡くした戦災孤児や貧困により親に棄てられた子ども、浮浪児等の存在も社会問題としてとりあげられることとなった。

物不足ではあったが、数多くの新聞や雑誌が発行され、多くの国民に読まれることとなった。登呂・岩宿遺跡等の考古学、湯川秀樹のノーベル賞受賞、太宰治や坂口安吾等が戦後の文学を確立することとなった。

国民の生活は、日々の生活の苦しさを忘れるための大衆娯楽文化が盛んとなる。事項の2）昭和・大正の流行歌・歌手においても述べるが、並木路子の「リンゴの歌」が大流行し、戦後を代表する「美空ひばり」等が登場するのもこの時代の特徴と呼べるのではなかろうか。昭和27年には民間のラジオ放送も開始され、国民の大衆娯楽への興味は加速していった。

そして、1950（昭和25）年、朝鮮半島で勃発した朝鮮戦争がきっかけとなり好景気（特需景気）となり、日本の景気が徐々に回復することとなった。

昭和30年代から40年代後半は高度経済成長の時期であり、国民生活がもっとも豊かになった時期である。池田勇人内閣時に出された「所得倍増計画」もこの高度経済成長の恩恵を受けたものである。昭和30年の経済白書においては「もはや戦後ではない」という有名な言葉が残されているが、同年の厚生白書においては、すべての国民の生活が豊かになったのではないことを指摘している。また、日米相互協力及び安全保障条約に反対する革新勢力と全学連の学生、一般市民による巨大デモと警官隊との衝突（60年安保闘争）が激化した。

この昭和30年から40年代の文化は、農村部から都市部への人口移動が起こり、都市部の過密化と農村部における過疎化の問題を明らかにした。核家族の増加や高層アパートでの生活、電化製品や自動車等の耐久消費財が爆発的に普及することとなった。1960年代前半は三種の神器と呼ばれる「テレビ（白黒）、電気洗濯機、電気冷蔵庫」、60年代後半は、カラーテレビ、自家用自動車、クーラー「３Ｃ（新三種の神器）」が普及した。食生活も豊かになり、肉類や乳製品、インスタント食品や冷凍食品、外食産業等が急速に発達した。

交通道路網も1964（昭和39）年の東海道新幹線、1965（昭和40）年の名神高速道路、1969（昭和44）年の東名高速道路の開通が、政府の手によって進められた。昭和39年にオリンピックが東京で開催され、1970（昭和45）年には大阪で日本万国博覧会が開催される等、日本経済はますます発展することとなった。

大学進学者の増加やレジャー産業、マスメディアの発達や1953（昭和28）年のテレビ放送の開始等国民生活は徐々に豊かとなり「中流意識」を国民の８割から９割が考えるようになった。

高度経済成長期は、文化の大衆化が急速し、新聞・雑誌・書籍の発行部数の激増、少年向けの漫画雑誌が青年層をもとらえることとなった。松本清張や司馬遼太郎、高橋和巳や三島由紀夫、大江健三郎、手塚治虫等が活躍した。この成長を支えた１つに、大学等の研究機関の業績も大きい。朝永振一郎と江崎玲於奈のノーベル物理学賞もこの１つである。

高度経済成長は1973（昭和48）年のオイルショックによりが発生し、経済低成長の時代に突入することとなった。

私たちの生活は、政治、経済、文化と密接な関係があることが明らかとなった。この研究を展開するにあたり、年表を作成する際参考にしたのは、高等学校で使用されている「日本史Ａ」「日本史Ｂ」の教科書等を参考とした。高等学校教育における歴史教育は、私たちの生活を考える中で歴史の意味を見つめていくことであると思われる。また、高校生として理解すべき基本事項について記載されている点から、これらの文献から代表的なものを抽出することとした。日本における歴史教育は、暗記科目ではなく「過去の生活を理解することで現在の生活を理解し、現在の生活を理解するためには、過去を理解すること」と考える。

人には、それぞれにこれまでたどってきた歴史がある。この個人の歴史と、社会、経済、文化の歴史を照らし合わせることでその人のことがより一層理解できるのではないだろうか。このような意味からも、自国の歴史を学ぶ意味の重要性を認識することができる。

2）大正・昭和の流行歌・歌手（表２－１～３）

大正時代前半までは、歴史や道徳等他の教科と関連した唱歌教育が実施されていた。大正時代の中頃、当時の文学者の間で、もっと子どもたちに親しみやすく、こどもの美しい空想や感情を育てる歌を作ろうという運動（童謡運動）があり、子どものための新しい歌「童謡」作られるようになった。童謡運動は、西洋文化を吸収消化して新しい文化を作り出そうとする大正時代の雰囲気を反映したものといえる。童謡運動の中心になった人物として、北原白秋・野口雨情・西條八十・山田耕作・中山晋平等が挙げられる。西條八十作詞の「かなりや」は、児童文芸雑誌「赤い鳥」に掲載された童謡の第一号である。大正時代は、優れた童謡詩人を輩出し、かつてない美しい旋律と歌が巷に流行した。童謡は、時代を超えて今でもなお人々の心に生き、歌い継がれている。高齢者施設でもコミュニケーション手段としてはもちろん、レクリエーションや季節の行事等で歌い続けられている。

大正時代後期は、レコードが大量に売れるようになった。当時の歌は、街頭で演歌師が歌い流行らせ、それをレコード会社がレコード（ＳＰ盤）にしていた。そうした「人」を通しての"はやり歌"が、昭和になると、めざましい技術開発の進むレコード・ラジオ・映画の「マスコミ」を通しての"流行歌"が全国に広まった。蓄音機が家庭に普及し、ラジオ放送が始まり、大衆性のある流行歌が聞かれるようになった。

戦前の軍国時代は、軍歌や大陸をテーマにした曲、映画主題歌が誕生した。また、偉大な作曲家古賀政男の登場により新鮮な歌が生まれ、「影を慕いて」「酒は涙か溜息か」等、“晋平節”より“古賀メロディ”が大衆に支持されていった。服部良一は、「リンゴの木の下で」「蘇州夜曲」等、ジャズ・ブルース・チャイナメロディー等戦前のモダンな文化を常に先取りしていた。さらに、「赤城の子守歌」「国境の町」等、民謡のレコード化が続き、東海林太郎の出現で根強い日本調民謡も全盛になった。このように、流行歌が全盛になる一方で、国内では不穏な事件が続き重苦しい時代になり、昭和の軍歌が作られ始める。戦中は、「愛国の花」「空の神兵」等、勇ましい歌が多数出てきた。

敗戦の辛さ苦しさがしみじみと身にしみ、誰もが食うのが精一杯で明日のこと等誰もわからないままにとりあえず新しい生活を始めた頃、大衆の心を慰めたのが歌だった。並木路子が歌う「リンゴの歌」は、戦後の暗い世相の中からパッと咲いた一輪の花のようだった。この歌は、敗戦で荒んだ気持ちに希望と生き抜く力を与えた。また、同じように藤山一郎の「長崎の鐘」も、独特の宗教的な雰囲気とともに戦災に打ちひしがれた人々を慰め励まし復興への思いを奮い立たせた。昭和23年には、昭和の歌謡史を代表する歌手であり女優である美空ひばりが登場した。翌年の映画「悲しき口笛」のシルクハットに燕尾服で歌う映像は、小さい時を代表するものとしてよく取り上げられている。

敗戦･戦後・新生日本様々な時代区分が入り乱れ音楽・映画等アメリカ文化が続々上陸した。やがて昭和の時代も経済成長とともに歌謡曲もますます幅広くなり、メディアの普及と共により身近なものとなっていった。昭和30年代は、テレビが広まりジャズ喫茶全盛で、外国から来たオールディース等の曲に加え、演歌、ジャパニーズ・ポップス、ジャパニーズ・フォーク等あらゆる分類に進

化していった。昭和34年に日本レコード大賞がはじまり、第１回レコード大賞は、「黒い花びら」で水原弘が受賞した。昭和40年代は、歌謡曲の世界にも全く新しい流れが起き、グループサウンドが到来した。

これまでここに掲載した曲は、主に時代背景を映し出している歌や日本レコード大賞または、日本有線大賞の受賞曲であり、これらの曲は、高齢者施設の余暇の時間にも聞かれることが多い。現在、コマーシャルソングとして用いられる歌やリバイバルされている歌もある。歌には、いつも口ずさむ歌・胸が熱くなる歌・当時を思い出す歌等、それぞれの思いが込められている。

学生には、これらの資料を基に、時代の流れを踏まえたうえで話題を広げ、さらに、それぞれの記憶に残る歌を用いてコミュニケーションを図り、少しでも早く信頼関係が築けるよう活用できればと考える。

3)　大正・昭和の遊び

遊びにおいて大正・昭和の遊びを文献等で調べてみると多くの遊びが時代を超えて続いていた。また、今の時代でも伝わっている遊び、同じ遊びで名前が変化している遊び、ある年代以下は知らないような遊び等があった。そのため、その年に大流行した遊びはあっても、細かい年表を作成することは困難であったので、アンケート調査し、時代ごとの遊びの内容の変化を見ることにした。

アンケートの内容は、大正・昭和の遊び89項目を文献や前述のアンケート調査から抽出し、「幼い頃よく遊んでいた、遊び方は知っているがあまり遊んでいない、その遊び方を知らない」について、エルダーカレッジ生や地域の高齢者、及び学生等に調査し、男性17人、女性26人から回答を得た。

【年齢別回答者数】

	男性（人）	女性（人）
大正10～14年（86～82歳）	0	3
昭和元～５年（81～77歳）	1	1
昭和６～10年（76～72歳）	3	1
昭和11～15年（71～67歳）	10	8
昭和16～20年（66～62歳）	1	6
昭和21～30年（61～52歳）	0	1
昭和31～40年（51～42歳）	0	1
昭和41～50年（41～32歳）	0	2
昭和51～60年（31～22歳）	0	1
昭和61～平成７年（21～12歳）	2	2
計	17	26

①　昔よく遊んでいた遊びで今でもよく遊ばれている遊び

鬼ごっこ・ままごと・トランプ・あやとり・折り紙・縄跳び・かくれんぼ・シャボン玉・カゴメカゴメ・カルタ・おしくらまんじゅう・陣取り・羽根つき・あんたがたどこさ

これらの遊びは、どの世代も「よく遊んだ」と答えており、男女の別や多少地域が違っていても、自分の経験を通して共感しながら話せる遊びであると考えられる。一緒に話し、遊ぶことで世代間を超えお互いに懐かしく楽しむことができる遊びと考えられる。

②　昔も今もほとんどの世代で知っているが遊んでいない世代や知らない世代がある遊び

ずいずいずっころばし・竹とんぼ・ゴムとび・雪合戦・石蹴り・蝉取り・ヨーヨー・トンボとり・凧揚げ・肝試し・コマ回し・お手玉・影絵・きり絵・メンコ（ぺちゃ）・けん玉・草スキー・福笑い・おちゃらかホイ・花いちもんめ・捕まえ鬼・達磨さんが転んだ・毬つき・ベイゴマ・道路に落書き・草野球(野球)・絵描き歌・戦争ごっこ・缶けり・魚とり・チャンバラ・騎馬戦・ゴム鉄砲・ハンカチ落とし・キューピー人形

これらの遊びは、昔も今もほとんどの世代で知っていたり遊んでいたりするが、年代や男女によって遊んでいなかったり知らないと答える世代もあった遊びである。メンコ・コマ回し・蝉捕り・チャンバラ・戦争ごっこ・騎馬戦等は男の子、お手玉や毬つきは女の子の遊びであったために自分は遊んでないと答えている。

また、捕まえ鬼は時代とともに名前が変わり警察が泥棒を捕まえる遊びとして今は“警どろ”や“どろ巡”と呼ばれているために捕まえ鬼という遊びとしては知らないと答えたりしているようである。

③　昔はよく遊ばれていたが今はあまり遊ばれていない遊び

上がり目下がり目・石蹴り・ちゅうちゅうたこかいな・天神さまの細道・竹馬・ビー玉・おはじき・手まり歌・輪回し・ゴム銃遊び・下駄隠し・銀球鉄砲・おおなみこなみ・かん馬

この遊びは、今はあまり遊ばれていない。若い層は知らない遊びである。このような遊びを高齢者に教えてもらうことで、コミュニケーションを深めることができると考えられる。

④　一時的に流行った（呼び名）遊び

いろはに金平糖（大正10～14年）・かん馬（ま）（昭和2年～５年）・紙芝居（昭和6年～10年）・グライダー(昭和41～50年)・くぎぬき（昭和６～30年）・ぽっくり（昭和31～40年）・Ｓけん（昭和51～60年）・屋根天(大正10～14年)・ホッピング(昭和41～50年)

「ぽっくり」は「かん馬」が時代と共に代わった呼び名であると思われる。「Sけん」は佐賀では「えいごえいご」という名前で知られている。「屋根天」は遊び方を聞くとわかる人も多い。

⑤　途中からよく遊ばれた遊び

どろ団子つくり（昭和１年以後）・グリコチョコレートパイナップル（昭和30年頃～）

⑥　昔も今もあまり遊ばれていない遊び

ひやうけ・天代・魚雷船ゲーム・お酒の蓋落とし

これらは文献にはよく遊んだ遊びとして載っていたが、今回の調査では、よく遊んだと答える人はいなかった。地域性があるのか、または遊び方と呼び名が一致していないものと思われる。「天代」においては横綱大関と呼んでいた頃もあるので10代20代の学生に聞いたが遊び方自体を知らなかった。

昔の遊びの中には時代とともに消えた遊びもあるが、名前を変えて今に伝わっている遊びも多くある。

今の学生はまだゲームが出始めの世代であるが、最近の遊びは多岐にわたって増加している。これからは、さらにTVゲーム等に夢中の学生が入学してくると考えられる。遊びにおいても、ますます世代間のギャップが広がることから、「遊び」を媒体としてコミュニケーションが図れるよう、高齢者の生活史を研究し学生に伝えていくことは重要であると考える。

(3)　北名古屋市歴史資料館・回想法センターの見学

今、介護の手法として高齢者の心の豊かさを引き出して、コミュニケーションを深めるために、高齢者の話に耳を傾ける回想法が多くの現場で取り入れられている。回想法とは、懐かしい生活用具等を用いて、かつて自分が体験したことを語り合ったり、過去のことに思いをめぐらしたりすることにより、脳を活性化させ、活き活きとした自分を取り戻そうとする療法である。

平成19年10月に北名古屋市の『北名古屋市歴史民俗資料館』と『北名古屋市回想法センター』を見学した。資料館は別名「昭和日常博物館」といい、昭和時代の家のつくりから炊事道具や農機具、土間、駄菓子屋、床屋等が再現され、昭和時代の生活史を物語る懐かしい生活用具が展示されていた。昭和時代を過ごした者にとっては幼い頃や生活のため頑張っていた当時に思いをめぐらし、懐かしさと思い出が走馬灯のように蘇ることだろうと感ぜずにはおれなかった。回想法センターは資料館のすぐ傍にあり、明治時代の民家で国の登録有形文化財である旧加藤家住宅内に併設されており、全国的にも数少ない「回想法」を実践している。センター内には、昔なつかしいコマやお手玉、メンコ等のおもちゃの他、昔の生活用具等が展示されており、地域の高齢者グループや個人の来訪の他、県外からも多くの見学者等が訪れている。我々が見学した時も、ある高齢者グループが、懐かしい生活用具や昭和時代の写真を手に、かつての生活を振り返り、楽しそうに生き生きした表情で語り合っておられた。

本研究をさらに深めるに当たり、昭和時代を理解するために北名古屋市の回想法センターを見学したが、このような回想法センターを本学でも設置することができれば、学生が高齢者を理解する上でより効果的ではないかと考えた。資料としてまとめた昭和時代の歴史・文化に纏わる玩具や写真、その他生活用具等を実際に集め展示し、本学にこのような場を設置して地域に開放することにより、学生が実際に昭和時代の生活用具等を視て触れることができ、学生のコミュニケーション能力の向上に繋げることができる。また、学生と地域高齢者やエルダーカレッジ生とのコラボレーションの場や、高齢者の介護予防の実践の場としても活用できるのではなかろうかと考える。

表１－１　【男性】エルダーカレッジ　アンケート結果

生まれた年	人数	幼少期～青年期に流行った遊び	幼少期～青年期に流行った歌・歌手	歴史的な出来事で一番心に残っていること	今の若い人に ①理解して欲しいこと ②残したいこと ③教えたいこと	これまでの生活で最も ①嬉しかったこと ②悲しかったこと ③辛かったこと
大正10～14年 (86～81歳)	1	・戦争ごっこ ・ビー玉　・ぺちゃ ・ベーゴマ・鬼ごっこ ・かくれんぼ	・軍歌・梅干し ・葉隠れ武士 ・長持ち歌・黒田節 ・炭坑節	・戦争 ・敗戦 ・戦後の困窮生活 ・東京オリンピック ・テレビの到来 ・佐賀県国体 ・アポロ月面着陸	① ・物を大切に ② ・人情を尊ぶ ・今の平和と生活の安定 ③ ・戦争と戦後の困窮生活 ・心豊かな人情の尊さ	① ・生きて復員できた ②③ ・多くの戦友を亡くした ・敗戦 ・復員後の困窮生活
昭和元～５年 (81～77歳)	1	記憶なし 仕事に専念	特になし	・復員　・国鉄入り ・朝鮮戦争等の貨物輸送に従事	国力の充実	特になし
昭和６～10年 (78～72歳)	6	・コマ回し (5) ・おしくらまんじゅう ・戦争ごっこ ・凧揚げ(2)・ぺちゃ(3) ・かくれんぼ ・缶けり(2) ・草スキー・ビー玉 ・魚とり・魚釣り ・めじろとり ・鳥罠つくり・草野球 ・輪回し ・竹馬 ・模型飛行機 ・グライダー	・湖畔の宿・異国の丘(2) ・酒は涙かため息か ・軍歌(3) ・リンゴの歌(3) ・東京ブギブギ ・白い花の咲く頃 ・リンゴ追分 ・青い山脈(2)・枯葉 ・エデンの東 ・イヨマンテの夜 ・南の花嫁さん ・蘇州夜曲 ・上海帰りのリル ・憧れのハワイ航路 ・美空ひばり ・渡辺浜子・津村謙 ・笠置しずこ ・高嶺三枝子 ・藤山一郎・古賀政男 ・ダミア・イブモンタン	・屋久島の生活 ・終戦の詔勅(2) ・太平洋戦争(3) ・終戦(2) ・食糧不足 ・原子爆弾投下(2) ・共産圏の崩壊 ・ケネディ暗殺 ・月に宇宙船着陸	① ・思いやり ・お金中心の社会の欠点 ・目上を大切にすること ・老人の積年生活の努力 ・長幼の序 ② ・情けは人のためならず ・世の中のしきたり ・礼節(2) ・自由平等の関係(友人) ・支配、服従の関係(職場) ・伝統と文化 ③ ・おごらないこと ・謙虚になること ・礼儀作法 ・社会の構造 ・本を読んで欲しい ・基本的生活習慣	① ・自分のしたことが予想以上に取上げられた ・就職が決まったこと ・信号機を交渉し半感応式が完成したこと ・結婚・子どもの誕生(2) ②③ ・父の戦死 ・母の死 ・妻の死 ・職がなかったこと ・両親の死(3) ・妻の入院・妻の死 ③ ・自分の能力の限界を知った時
昭和11～15年 (71～67歳)	4	・かくれんぼ(2) ・毬つき・おはじき ・騎馬戦・陣取り ・缶けり・陣取り ・ぺちゃ・チャンバラ ・野球・ひやうけ ・針ねんぼう・魚とり ・凧揚げ	・赤とんぼ ・とんがり帽子 ・青い目をした人形 ・リンゴの歌 ・小指の思い出 ・みかんの花咲く丘 ・ふるさと ・川は呼んでいる ・吉永小百合 ・川田孝子 ・川田昌子 ・伊藤ゆかり ・高橋真梨子	・太平洋戦争の開 ・終戦(3) ・原子爆弾投下 ・マッカーサー元帥の解任	①・年配者の気持ち ・命の尊さ ②・伝統芸術(文化) ・地域の行事・祭り ・教育の徹底 ③・古い日本の慣習で生活に役たつこと ・世の中で何が必要か	① ・就職が決まったこと ・結婚・受験に合格 ・給料が上がった ・結婚 ・２人の子供の誕生 ・子どもの誕生 ② ・両親の死(2) ・土砂崩れで死傷者が出た ・胃の手術をした
昭和16～20年 (66～62歳)	2	陣取り(2) ・チャンバラ・ぺちゃ ・ビー玉・けんかゴマ ・くぎぬき・Ｓけん ・ケンケンパタ ・馬乗り・トンボとり ・魚とり・蝉取り ・ゴム銃遊び ・草野球・かくれんぼ	・リンゴの歌 ・鐘の鳴る丘みかんの花咲く丘 ・長崎の鐘 ・白い花の咲く頃 ・川田孝子 ・古賀さと子 ・藤山一郎・橋幸夫	・太平洋戦争 ・終戦後の小学校生活 ・皇太子 美智子妃殿下の結婚式 ・東京オリンピック ・大阪万博 ・浅間山山荘事件 ・雲仙普賢岳の噴火 ・ケネディーの暗殺 ・ダイアナ妃の事故死	① ・目上の人を敬う ・高齢者の心身の衰え ② ・日本のよき伝統 ・やさしい思いやりの心 ・素直に感謝する心 ③ ・読書の楽しさ(図書館をどんどん利用して欲しい)	① ・今の妻と結婚できたこと ・娘の結婚式とお礼の言葉や花束をもらった時 ② ・両親・知人の死去 ・妻の両親が相次いで亡くなったとき ・会社の社長の急逝

表１－２　【女性】エルダーカレッジ　アンケート結果

生まれた年	人数	幼少期～青年期に流行った遊び	幼少期～青年期に流行った歌・歌手	歴史的な出来事で一番心に残っていること	今の若い人に ①理解して欲しいこと ②残したいこと ③教えたいこと	これまでの生活で最も ①嬉しかったこと ②悲しかったこと ③辛かったこと
大正５～14年	0					
昭和元～５年 (81～77歳)	1	・ベース遊び ・縄跳び ・ゴムとび	・今日でお別れ ・菅原洋一・岸洋子	・広島・長崎原爆 ・敗戦	① ・戦争中の物資不足 ・精神的な困難 ② ・歴史的ことへの関心 ③ ・言葉遣い・礼儀・敬老	① ・子どもの成長・進学 ・結婚・子どもがいい家庭が作れたこと・孫の成長 ② ・両親との死別・夫の死
昭和６～10年 (76～72歳)	1	・ゴムとび ・麻雀 ・鬼ごっこ ・野球 ・お手玉 ・石蹴り	・青い山脈 ・異国の丘 ・手毬の歌 ・藤山一郎 ・春日八郎 ・岡晴夫	・第二次世界大戦 ・終戦 ・満州より引き上げ	① ・家族の絆を大切に ② ・日本の自然の美しさと文化的遺産 ③ ・困難や苦しさに耐え得る強い精神力を持つ	① ・博多港に引揚げ戦場から日本を見たとき ②③ ・引揚げの途中で多くの子どもが置き去りや死んでいったこと
昭和11～15年 (71～67歳)	5	・おはじき(3) ・お手玉(5) ・ゴムとび(1) ・缶けり(2) ・かくれんぼ(3) ・陣取り(4) ・毬つき(2) ・フラフープ ・瓦けり(2)・馬乗り ・カルタ ・縄跳び(2) ・石蹴り ・ままごと ・ねずみのひょうろ ・ぺちゃ	・青い山脈 ・東京の人 ・ああそれなのに ・十三夜 ・高等学校寮歌 ・テネシーワルツ ・悲しき口笛 ・柿木坂の歌 (2) ・鐘の鳴る丘 ・伊豆の踊り子 ・赤と黒のブルース ・君の名は ・北上夜曲 ・手まり歌 ・水原弘 ・フランク永井 ・美空ひばり(4) ・江利チエミ(2) ・三浦こう一 ・西田佐知子 ・石原裕次郎 ・村田英雄 ・織井しげ子 ・三波春夫	・皇太子・美智子妃殿下の結婚式 ・ヨド号乗っ取り ・浅間山山荘事件(3) ・戦争(2)・大阪万博 ・サリン事件	① ・年配者の気持ち(2) ・物の大切さ ・老人の話を聞いてくれる(2) ② ・目上の人を尊敬する ・世の中には秩序がある ・本当の日本語 ・敬語の使いかた ・日本伝統を見る(2) ・昔の遊び ・地域の行事・祭り ③ ・法治国家である ・日本人としての品位 ・してはいけないこと ・礼儀作法 ・世の中には上下、順番がある ・世の中変わっても変えてはならないものがある ・昔からの習慣 ・言い伝え	① ・子どもたちが結婚してくれたこと(3) ・入試の合格 ・夫との結婚(最高の人) ②③ ・つれあいの病気 ・肉親の死・夫の死(2) ・自分の手術 ・息子の病死
昭和16～20年 (66～62歳)	3	・おはじき (3) ・ままごと ・着せ替え人形 ・お手玉(2) ・ゴムとび(2) ・トランプ(2) ・縄跳び ・石蹴り ・ドッチボール ・あや取り ・手まり ・フラフープ	・りんご追分 ・かったち日記 ・南国土佐を後にして ・ブルーライト横浜 ・また逢う日まで ・旅立ち ・美空ひばり(2) ・島倉千代子 ・ペギー葉山 ・マヒナスターズ ・石原裕次郎 ・石田あゆみ ・尾崎紀代彦 ・山口百恵	・市町村合併 ・ワンマンバス運行 ・佐賀駅の移転 ・月面着陸(ロシア) ・長崎火山噴火 ・安保闘争 ・浅間山事件 ・沖縄返還 ・ベルリンの壁崩壊 ・拉致問題	① ・仕事の分担 ・協力し合うこと ・周囲の愛情により育てられていること ② ・町区の伝統行事 ・目上や両親への尊敬の念をはらう ・日本、そして地域の文化 ③ ・思いやりの気持ちを持ち続けてほしい ・日本人としての文化・マナー ・思ったことは失敗してもあきらめないで(ピンチはチャンスに)	① ・孫ができた ・無事定年を迎えた ② ・肉親の死・両親の死去 ③ ・姑の言葉遣い
昭和21～25年 (61～57歳)	3	・おはじき(2) ・ゴムとび ・石蹴り(2) ・映画鑑賞 ・ボーリング ・ダンス・お手玉 ・ゴムとび(2) ・たこにゅうどう ・陣取り ・チャンバラ ・人形ごっこ ・歌声喫茶 ・ゴーゴー	・高校三年生(2) ・いつでも夢を ・北の宿・私の城下町 ・フォークソング ・ロック ・舟木一夫(2) ・吉永小百合 ・橋幸夫・都はるみ ・小柳ルミ子 ・ミックジャガー ・ビートルズ	・平成になったこと ・東京オリンピック ・昭和天皇崩御 ・ビートルズ ・トゥイギーの来日	① ・特に違和感なし(家庭環境・道徳が影響している) ・機械でなく手仕事が多かった ・ガスや電気製品がなかった ・自分を主張しないで周りを大切に ② ・自然や神仏などの伝統行事・手を動かすこと ③ ・礼儀作法、言葉遣い	① ・子どもの結婚 ②・両親の死(2) ③ ・認知症の祖母との5年間(楽しかったことも多かった) ・頼りの親族からの反対の言葉

表２－１　大正時代の歴史、流行歌・歌手

年号	西　暦	社会的な出来事	流行歌・歌手
1916	大正５年	大正デモクラシーの始まり 大隈重信襲撃される	「電車」葛原茲 「バラの唄」亜米利加民謡 「新磯節」添田唖蝉坊
1917	大正６年	金輸出禁止	「金色夜叉」　宮島郁芳　後藤紫雲 「さすらひの唄」北原白秋　中山晋平 「にくいあん畜生」北原白秋　中山晋平
1918	大正７年	米騒動 シベリア出兵	「かなりや」西條八十　成田為三 「宵待草」　竹久夢二　多忠　亮 「ディアプロの唄」堀内敬三　オーベール 「コロッケの唄」益田太郎冠者
1919	大正８年	ベルサイユ条約調印	「琵琶湖周航の歌」小口太郎　吉田千秋 「パイノパイ節」添田さつき 「靴が鳴る」清水かつら　弘田龍太郎
1920	大正９年	国際連盟に正式加入 第一回メーデー開催	「叱られて」　清水かつら　弘田龍太郎 「十五夜お月さん」本居長世　野口雨情 「赤い鳥小鳥」北原白秋　成田為三
1921	大正10年	ワシントン会議 日英同盟廃棄	「船頭小唄」野口雨情　中山晋平 「どんぐりころころ」青木存義　梁田貞
1922	大正11年	日本共産党結成	「しゃぼん玉」野口雨情　中山晋平 「砂山」北原白秋　中山晋平
1923	大正12年	関東大震災 虎の門事件	「月の砂漠」加藤まさを 佐々木すぐる 「背くらべ」海野厚　中山晋平 「船頭小唄」野口雨情　中山晋平
1924	大正13年	メートル法実施 普通選挙法公布	「あの町この町」野口雨情　中山晋平 「からたちの花」野口雨情　山田耕作
1925	大正14年	治安維持法 日ソ基本条約 ラジオ放送開始	「籠の鳥」千野かほる　鳥取春陽 「征城寺の狸囃子」野口雨情　中山晋平
1926	大正15年	大正天皇崩御	「城ヶ島の雨」北原白秋　梁田貞 「籠の鳥」千野かほる　鳥取春陽

表２－２　昭和元年から昭和19年までの歴史、流行歌・歌手

年号	西　暦	社会的な出来事	流行歌・歌手
1926	昭和元年	昭和天皇即位	「思い出した」添田さつき　鳥取春陽 「鉾をおさめて」時雨音羽　中山晋平
1927	昭和２年	金融恐慌 山東出兵	「この道」北原白秋　山田耕作 「汽車ぽっぽ」富原薫　草川信 「ちゃっきり節」町田嘉章
1928	昭和３年	最初の普通選挙開始 張作霖爆殺事件	「君恋し」　二村定一 「出船」　藤原美江 「朝日に匂う櫻花」本間雅晴　佐藤長助
1929	昭和４年	世界恐慌 旅客飛行開始	「東京行進曲」佐藤千夜子 「維新謹王の花」山国隊軍歌
1930	昭和５年	昭和恐慌 ロンドン海軍軍縮条約調印	「祇園小唄」藤本二三吉 「酋長の娘」石田一松 「憧れの海軍」四家文子

年号	西　暦	社会的な出来事	流行歌・歌手
1931	昭和６年	満州事変 日本初のトーキー映画	「影を慕いて」藤山一郎 「酒は涙か溜息か」藤山一郎 「丘を越えて」藤山一郎
1932	昭和７年	五・一五事件 上海事変　　満州国建国 リットン調査団	「城ヶ島の雨」奥田良三 「夜の酒場に」徳山璉 「大空の守り」平井英子
1933	昭和８年	国際連盟脱退 滝川事件	「サーカスの唄」松平晃 「東京音頭」小唄勝太郎 「赤城の子守歌」東海林太郎 「皇太子さまお生まれなった」平山美代子　高山徳子　松本俊枝
1934	昭和９年	ワシントン軍縮条約破棄	「国境の町」東海林太郎
1935	昭和10年	天皇機関説問題化 芥川賞・菊池賞創設	「二人は若い」ディック・ミネ　星玲子 「雨に咲く花」　関種子 「野崎小唄」東海林太郎
1936	昭和11年	二・二六事件 阿部定事件	「東京ラプソディ」藤山一郎 「忘れちゃいやよ」渡辺はま子 「うちの女房にゃ髭がある」美ち奴・杉狂児
1937	昭和12年	盧溝橋事件 日中戦争 南京事件 文化勲章制定	「別れのブルース」淡谷のり子 「りんごの木の下で」ディック・ミネ 「露営の歌」藪内喜一郎 古関裕而 「裏町人生」島田磐也　阿部武雄
1938	昭和13年	国家総動員法	「人生劇場」楠木繁夫　村田英雄 「満州娘」服部富子 「支那の夜」渡辺はま子 「愛国の花」渡辺はま子 「旅の夜風」霧島昇　ミス・コロムビア
1939	昭和14年	米が配給制　　価格統制令 ノモハン事件　日米通商航海条約破棄 国民徴用令 朝鮮人の氏名を日本式に創氏解明する公布が出される	「名月赤城山」東海林太郎 「九段の母」塩まさる 「愛馬進軍歌」永田弦次郎　長門美保 「一杯のコーヒーから」霧島昇　ミス・コロンビア
1940	昭和15年	日独伊三国同盟成立 大政翼賛会結成 北部印仏進駐	「誰か故郷を想わざる」霧島昇 「隣組」徳山璉 「湖畔の宿」高峰三枝子 「別れ舟」田端義夫 「蘇州夜曲」霧島昇　渡辺はま子
1941	昭和16年	真珠湾攻撃 米穀配給通帳制実施 南部印仏進駐 第2次世界大戦開戦 尋常小学校を国民学校と改称	「十三夜」小笠原美都子 「たきび」巽聖歌　渡辺茂 「うみ」林柳渡　井上武士 「めんこい仔馬」二葉あき子　高橋祐子
1942	昭和17年	関門海底トンネル開通 ミッドウェー海戦	「森の水車」高峰秀子　並木路子 「鈴懸の徑」灰田勝彦 「空の神兵」鳴海信輔　四家文子　灰田勝彦　大谷冽子 「うれしいひな祭」サトウハチロー　河村光陽

年号	西　暦	社会的な出来事	流行歌・歌手
1943	昭和18年	学徒出陣 ガナルカナル撤退	「勘太郎月夜唄」小畑実　藤原亮子 「若鷲の歌」霧島昇 「戦友の遺骨を抱いて」酒井弘
1944	昭和19年	本土爆撃本格化 学童疎開が始まる サイパン陥落 連合軍ノルマンディー上陸	「同期の桜」西條八十 「ラバウル海軍航空隊」灰田勝彦 「少年兵を送る歌」鬼俊英　井口小夜子　宮城しのぶ他

表２－３　昭和20年から昭和50年までの歴史、流行歌

年号	西　暦	社会的な出来事	流行歌・歌手
1945	昭和20年	東京大空襲 沖縄本島占領 広島原爆投下　　長崎原爆投下 ポツダム宣言受諾 第2次世界大戦終結　　ヤルタ会談 GHQ設置　　国際連合成立 財閥解体　　農地改革 連合国軍日本進駐 労働組合法	「里の秋」斉藤信夫　海沼実 「愛国行進曲」森川幸雄　瀬戸口藤吉 「お山の杉の子」吉田テフ子　サトウハチロー 佐々木すぐる
1946	昭和21年	天皇人間宣言　日本国憲法公布 極東軍事裁判開始 第一回国民体育大会開催 当用漢字・新かなづかい告示 男女共学　公娼制度廃止 戦災孤児の増加	「かえり船」田端義夫 「リンゴの唄」並木路子　霧島昇 「悲しき口笛」美空ひばり 「東京の花売り娘」谷真酉美 「みかんの花咲く丘」加藤省吾　海沼実
1947	昭和22年	日本国憲法施行 第１回国会の開催 教育基本法　学校教育法 労働基準法　児童福祉法 独占禁止法公布 電力不足	「啼くな小鳩よ」岡晴夫 「東京ブギウギ」笠置シヅ子 「山小舎の灯」近江俊郎 「星の流れに」菊池章子 「港が見える丘」平野愛子 「とんがり帽子」川田正子
1948	昭和23年	帝銀事件 夏時刻法公(昭和27年廃止) ララ物資による給食開始 経済安定九原則	「憧れのハワイ航路」岡晴夫 「異国の丘」竹山逸郎　中村耕造 「湯の町エレジー」近江俊郎
1949	昭和24年	ドッジ・ライン　　シャウプ勧告 湯川秀樹がノーベル賞を受賞 法隆寺壁画燃損 岩宿で旧石器発見 下山・三鷹・松川事件	「悲しき口笛」美空ひばり 「あざみの歌」伊藤久男 「銀座カンカン娘」高峰秀子 「青い山脈」藤山一郎　奈良光枝 「夏の思い出」石井好子 「長崎の鐘」藤山一郎
1950	昭和25年	朝鮮戦争勃発　レット・パージ 警察予備隊設置 金閣全焼　　文化財保護法制定 池田勇人「貧乏人は麦を食え」	「トロイカ」楽団カチューシャ（訳詩） 「東京キッド」美空ひばり 「買い物ブギ」笠置シズ子

年号	西　暦	社会的な出来事	流行歌・歌手
1951	昭和26年	対日平和条約 日米安全保障条約 朝鮮特需 民間ラジオ放送開始 公営住宅法	「星影の小径」小畑実 「私は街の子」美空ひばり 「あの丘こえて」美空ひばり 「上海帰りのリル」津村謙 「めだかの学校」茶木滋　中田喜直
1952	昭和27年	メーデー事件(血のメーデー) 保安隊設置 日航機「もく星号」三原山に墜落 ヘルシンキオリンピックに日本戦後初参加	「芸者ワルツ」神楽坂はん子 「リンゴ追分」美空ひばり 「お祭りマンボ」美空ひばり 「テネシーワルツ」江利チエミ
1953	昭和28年	朝鮮戦争終結 吉田首相「バカヤロー発言」により国会が解散 NHKテレビ放送開始 奄美大島返還 中国から集団引き揚げ再開	「君の名は」織井茂子 「街のサンドイッチマン」谷真美 「ぞうさん」まどみちお　團伊玖磨 「黒百合の歌」織井茂子 「雪の降る町を」内村直也 中田喜直
1954	昭和29年	第五福竜丸事件 自衛隊発足　　防衛庁設置 平城宮の発掘開始 日本初のスポーツ世界選手権開催(世界男子スピードスケート)	「お富さん」春日八郎 「高原列車は行く」岡本敦郎 「岸壁の母」菊池章子 二葉百合子 「ひばりのマドロスさん」美空ひばり 「原爆許すまじ」浅田石二　木下航二
1955	昭和30年	自由民主党結成　　社会党統一 神武景気の始まり １円玉、50円玉硬貨の発行 森永ヒ素ミルク事件 国鉄宇高連絡船事故	「別れの一本杉」春日八郎 「この世の花」島倉千代子 「月がとっても青いから」菅原都々子 「ちいさい秋みつけた」サトウハチロー　中田善直
1956	昭和31年	日ソ共同宣言　国連加盟決定 南極観測開始 経済白書「もはや戦後ではない」 砂川事件　　売春防止法成立 住宅公団入居者初募集、 シリンダー錠が取り付けられる。	「ここに幸あり」大津美子 「リンゴ村から」三橋美智也 「哀愁列車」三橋美智也. 「ラジオ体操の歌」藤浦洸　藤山一郎 「ケ・セラ・セラ」ペギー葉山
1957	昭和32年	なべ底景気 売春防止法施行 南極観測基地「昭和基地」と命名 ソ連人工衛星打ち上げ成功 100円硬貨発行	「チャンチキおけさ」三波春夫 「有楽町で逢いましょう」フランク永井 「喜びも悲しみも幾歳月」 若山彰 「東京だよおっ母さん」島倉千代子 「東京バスガール」初代コロムビア・ローズ
1958	昭和33年	メートル法施行 岩戸景気の始まり インスタントラーメン 「チキンラーメン」発売 フィルター付きたばこ「ホープ」発売 中国引き揚げ最終船舞鶴港到着 一万円札の発行	「無法松の一生」村田英雄 「からたち日記」島倉千代子 「嵐を呼ぶ男」石原裕次郎 「かあさんの歌」窪田聡
1959	昭和34年	メートル法実施 皇太子、美智子さまご成婚 100円銀貨、50円ニッケル貨、 10円銅貨、新5円黄銅貨発行 千鳥ヶ淵戦没者墓園完成 伊勢湾台風	「黄色いさくらんぼ」スリー・キャッツ 「黒い花びら」水原弘 「東京ナイトクラブ」 フランク永井　松尾和子 「南国土佐を後にして」ペギー葉山

年号	西　暦	社会的な出来事	流行歌・歌手
1960	昭和35年	安保闘争激化 (東大生樺美智子死亡) 日米安全保障条約の改定 浅沼稲次郎委員長刺殺事件 三井三池争議 チリ津波 「高度経済成長」 「所得倍増計画」 四日市ぜんそく患者の増加	「達者でナ」三橋美智也 「誰より君を愛す」松尾和子　和田弘とマヒナスターズ 「アカシヤの雨が止む時」西田佐知子 「潮来笠」橋幸夫 「有難や節」守屋浩
1961	昭和36年	南極観測が始まる ソ連ガガーリン人類初宇宙飛行 小児麻痺の流行	「上を向いて歩こう」坂本九 「君恋し」フランク永井 「川は流れる」仲宗根美樹 「王将」村田英雄 「北帰行」小林旭 「北上夜曲」和田弘とマヒナスターズ　多摩幸子 「東京ドドンパ娘」渡辺 マリ
1962	昭和37年	国産第1号原子炉点火 サリドマイド問題 オリンピック景気	「下町の太陽」倍償千恵子 「見上げてごらん夜の星を」坂本九 「遠くへ行きたい」ジェリー藤尾 「いつでも夢を」橋幸夫・吉永小百合 「ハイ、それまでよ」植木等
1963	昭和38年	世界初の高齢者福祉法律「老人福祉法」制定 ケネディ大統領暗殺	「長崎の女」春日八郎 「こんにちは赤ちゃん」梓みちよ 「おさななじみ」デュークエイセス 「高校三年生」舟木一夫
1964	昭和39年	東京オリンピック大会 東海道新幹線が開通する 新潟大地震 公明党結党	「東京の灯よいつまでも」新川二郎 「愛と死をみつめて」青山和子 「学生時代」ペギー葉山 「まつのき小唄」二宮ゆき子 「夜明けのうた」岸洋子
1965	昭和40年	名神高速道路開通 日韓基本条約 朝永振一郎ノーベル物理学賞を受賞	「さよならはダンスの後に」倍償千恵子 「ヨイトマケの歌」　丸山明宏 「柔」美空ひばり 「ねむの木の子守歌」美智子皇后　山本正美
1965	昭和40年	ベトナム戦争激化 新潟水俣病発生 いざなぎ景気	「函館の女」北島三郎
1966	昭和41年	衆議院「黒い霧」解散 休日「敬老の日」設定 全日空羽田沖墜落 ビートルズ来日 中国文化大革命	「今日の日はさよなら」森山良子 「君といつまでも」加山雄三 「バラが咲いた」マイク真木 「霧氷」橋幸夫 「悲しい酒」美空ひばり
1967	昭和42年	公害対策基本法 イタイイタイ病問題化 東京都革新都政(美濃部亮吉)誕生	「夜霧よ今夜もありがとう」石原裕次郎 「この広い野原いっぱい」森山良子 「小指の思い出」伊東ゆかり 「ブルーシャトー」ジャッキー吉川とブルー・コメッツ 「世界の国からこんにちは」三波春夫

年号	西　暦	社会的な出来事	流行歌・歌手
1968	昭和43年	GNP世界２位 いざなぎ景気 小笠原諸島が日本に復帰する 文化庁設置 川端康成がノーベル文学賞を受賞 札幌医大日本初の心臓移植 水俣病公害認定 東京府中3億円強奪事件	「星影のワルツ」千昌夫 「天使の誘惑」黛ジュン 「盛り場ブルース」森進一 「伊勢佐木町ブルース」青江三奈 「花の首飾り」ザ・タイガース 「三百六十五歩のマーチ」水前寺清子
1969	昭和44年	日米共同声明(沖縄返還72年決定) 東名高速道路開通 大学紛争激化 東京大学機動隊突入 アポロ11号月面着陸	「いい湯だな」ザ・ドリフターズ 「恋の季節」ピンキーとキラーズ 「いいじゃないの幸せならば」佐良直美 「ブルーライトヨコハマ」いしだあゆみ 「港町ブルース」森 進一 「さとうきび畑」森山良子
1970	昭和45年	日航機よど号ハイジャック 日本万国博覧会が開催 日本初人工衛星打ち上げ 核兵器拡散防止条約参加 日米安全保障条約自動延長	「希望」岸洋子　フォー・センツ 「今日でお別れ」菅原洋一 「知床旅情」森繁久弥　加藤登紀子 「うわさの女」内山田洋とクールファイブ 「傷だらけの人生」鶴田浩二
1971	昭和46年	ドルショック　変動為替相場制移行を決定 カップヌードル発売 環境庁発足 沖縄返還協定調印 印パ戦争	「わたしの城下町」小柳ルミ子 「琵琶湖周航の歌」加藤登紀子 「また逢う日まで」尾崎紀世彦 「傷だらけの人生」鶴田浩二 「あの素晴らしい愛をもう一度」フォーククルセイダーズ (北山 修　加藤和彦)
1972	昭和47年	沖縄本土復帰 日中国交回復 札幌冬季オリンピック開催 高松塚古墳壁絵発見 横井庄一元軍曹グアム島で保護 浅間山荘事件	「瀬戸の花嫁」小柳ルミ子 「喝采」ちあきなおみ 「四季の歌」芹洋子 「雨のエアポート」欧陽菲菲 「さそり座の女」美川憲一 「ひなげしの花」アグネスチャン
1973	昭和48年	オイルショック 金大中事件 老人医療費無料化	「くちなし花」渡哲也 「夜空」五木ひろし 「女のみち」ぴんから兄弟 「危険なふたり」沢田研二 「そして神戸」内山田洋とクールファイブ
1974	昭和49年	ルバング島で元日本兵小野田寛郎発見 長嶋茂雄引退	「襟裳岬」森進一 「愛ひとすじ」八代亜紀 「精霊流し」さだまさし 「二人でお酒を」梓みちよ
1975	昭和50年	先進国首脳会談 ベトナム戦争終結 山陽新幹線博多まで開通 沖縄海洋博覧会	「なごり雪」イルカ 「シクラメンのかほり」布施明 「私鉄沿線」野口五郎 「昭和枯れすすき」さくらと一郎 「北の宿から」都はるみ 「中之島ブルース」内山田洋とクールファイブ

参考文献

1）遠藤英俊：いつでもどこでも「回想法」(2005) ごま書房

2）師勝町歴史民族資料館：「研究紀要」(2005)

3）師勝町教育委員会：「探ってみよう暮らしのキオク」(2001)

4）野村豊子：回想法とライフレヴュー（1998）中央法規

5）小椋喜一郎:高齢者福祉文化史論　中央出版

6）詳解日本史研究:五味文彦・高埜利彦・海野靖編(2005)山川出版

7）現代の日本史:鳥海靖・三谷裕・渡邉昭夫(2005)山川出版

8）高校日本史:石井進・五味文彦・篠山晴生・高埜利彦(2005)山川出版

9）詳説日本史:石井進・五味文彦・篠山晴生・高埜利彦(2006)山川出版

10）お年寄りの歩んだ時代:西澤稔(2005)中央法規出版

11)なつかし遊び集:（財）日本レクリエーション協会(2007)

12）やさしいレクリエーション　懐かしい歌思い出の歌(2007)成美堂出版